

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570608893		
法人名	医療法人鹿嶋医院		
事業所名	グループホームお達者倶楽部		
所在地	秋田県男鹿市北浦北浦表町字表町52-2		
自己評価作成日	平成23年1月1日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が明るく穏やかに生活ができています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/JigyosyoBasicPub.do>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人経営の事業所であり、法人理事長である医師に24時間、いつでも相談できる体制が取られ、安心と信頼が得られています。また、軽体操やレクリエーション、作品作り等の余暇活動等によって身体機能維持に努められ、笑いや笑顔を引き出しております。さらに、職員の業務上の悩みやストレスに対し、スーパーバイザーが個人面談を行い、相談に応じ、運営に反映されております。利用者・家族、職員の双方が安心して、笑顔を持って穏やかに過ごされている事業所です。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市東通三丁目9-31		
訪問調査日	平成23年1月26日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の職員全体カンファレンスで運営理念や具体的な方向性等を職員に説明している。	事業所内に掲示されているとともに、毎月の全体カンファレンスで唱和され、理念の共有と実践に繋げております。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念の再構築に取り組まれることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム近所の美容室を利用したり、天気の良い日は、散歩するなど積極的に気軽に声を掛け合えることが出来ている。	散歩時の気軽な挨拶や声掛け、美容室の利用の他、同敷地内の法人経営事業所との交流等で地域の一員としての繋がりを持たれています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地区の文化祭等に皆で作った作品を出品し見学している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催回数が少ないこと、評価や意見をサービスの向上に活かされるように2ヶ月に一度行いたい。	H22.1の運営推進会議の後、会議は行われておりません。また、会議内容を分かりやすく記載する工夫を期待します。	運営推進会議の意義を理解され、概ね2か月に1回の開催ができるように工夫されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を開催し行政の方の出席をしていただきホームの実情サービスの取り組みを説明し協力を得られるようにしていきたい。	空床状況や制度面での確認・助言等で連携をとられています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを整備しており、利用者が身体拘束を受けることがないように努めている。カンファレンス等を通じ、拘束禁止について意識を高めている。	身体拘束をしてはならないことの共通認識のもと、拘束は行われておりません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを整備しており、利用者が身体拘束を受けることがないように努めている。カンファレンス等を通じ、拘束禁止について意識を高めている。		

グループホーム お達者倶楽部

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学ぶ機会を持ってないでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、十分な説明をしたうえで、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、毎月の利用料の請求書明細確認書送付時に返信ハガキに要望や意見を記入していただいている。	家族等からは面会時や電話での状況報告時に意見や要望の聴取が行われている他、毎月ハガキでの引き出しが行われております。また、意見箱の設置もあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人で契約しているコンサルタントが2～3ヶ月に一度、業務上での意見を聞き個人面談を行っている。	申し送り時やカンファレンスの中で職員に意見や提案を聞く機会を設け、さらにコンサルタントによる個人面談でスーパーバイズが行われ、運営に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得といった条件を満たしている職員に対し正職員への登用の機会を確保するなど各職員が向上心を持って働けるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できるだけ時間をつくり、外部への研修を受けられるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	男鹿南秋地区のグループホーム連絡会を設立し勉強会・交流会を通じネットワーク作りをしサービス向上に取り組んでいる。		

グループホーム お達者倶楽部

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する前に本人の話をよく聞き、不安なこと、困っていることを出来るだけ受け入れ関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に家族等の困っていること、不安に思っていることを聞き、援助方法を説明し経過を報告し安心していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が馴染める環境を作り、話を聞き尊敬の念を持ち人間関係を大切に支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に電話連絡をし状況報告をしたり、面会時には、共に喜び家族と一緒に過ごす時間を作り安心した関係づくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へのドライブ、馴染みの人は、家族や本人への面会受け入れ時に聞き取りをしている。	電話や美容室、医療機関、自宅訪問、馴染みの店での買い物、友人の面会等、関係が途切れないように支援をされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで一緒に過ごせる時間を多く会話やレクレーションを行い孤立しないような支援に努めている。		

グループホーム お達者倶楽部

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ長期入院や転居によりホームを退居した場合であっても関係者に情報提供するなど利用者本人の支えとなれるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中から利用者の希望を把握するよう努めている。本人からの確認が困難な場合は面会時などに家族から聞き利用者本位となるようにしている。	日々の生活の中で、また、担当職員と1対1になる機会を設け、言い出しやすい雰囲気を作り、思いや意向の把握に努められています。また、困難な場合は、仕草や行動、家族等から伺い、利用者本位に検討が行われています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人や家族のアセスメントで生活歴望み等を聞きサービス計画に盛り込んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の個人記録を基に、利用者一人ひとりの出来る出来ないことの把握に努め日常の活動に繋がるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族の意向を踏まえ職員間でカンファレンスで意見などを出し介護計画書を立てている。	毎月のカンファレンスで利用者の状況を話し合い、家族や利用者の意向を踏まえた介護計画書が6か月を目安に立案されています。また、状況に応じて見直しが行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に記入し共有している。申し送りノートを使用し常に情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

グループホーム お達者倶楽部

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの慰問があるなど地域資源の協力をえながら利用者のへの支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	理事長である医師や法人本体の診療所に24時間いつでも報告できる体制が整っている。また、近隣の薬局にも日々気軽に相談できるようになっている。利用者、家族から希望があれば訪問歯科を依頼できる体制も出来ている。	医院が経営する事業所であり、往診対応が行われておりますが、利用者・家族の希望する病院が利用可能です。近隣の薬局からの薬の受領支援や訪問歯科利用も可能です。また、受診結果は、家族・事業所双方で共有され、連携されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は、職員として配置はしていないが法人本体診療所の看護師といつでも連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、経過などについて医療機関との情報交換を家族や面会を通じて行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族から希望があれば、主治医から助言を得たりそれを家族、職員とで共有し支援を行っている。また主治医や家族の協力を得て看取りを行ったケースもある。	利用開始時に事業所での限界を説明されており、都度、主治医・家族等との話し合いを十分に行い、利用者支援が行われております。また、職員も方針を共有されております。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成しており職員は内容を把握している。ただ実践的には不安があり、訓練や応急手当の講習を受講させたいと思う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画にそって年二回避難訓練を実施していきたい。	スプリンクラーの設置やマニュアルが整備されており、職員間では、話し合いの機会を持たれておりますが、訓練は行われておりません。	最低でも年に2回の防災訓練に取り組まれ、火災・地震等に備えられることを期待します。

グループホーム お達者倶楽部

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーやプライドを損ねないよう利用者一人ひとりに合わせた優しくわかりやすい声かけを心がけている。	一人ひとりの人格を尊重された声掛けやプライバシーへの配慮が観られました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望をできるだけ聞き入れて日々を暮らしていただけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ本人の希望に添って本人のやりたい事ができるように支援している。(買い物等)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	本人の希望により行きつけの美容室にいけるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事を通じ職員と一緒に調理や後方づけを出来る利用者が担当して実施している。献立も希望を聞き入れたりしている。	下ごしらえや茶碗洗い、茶碗拭き、タオルやお絞りたたみ、献立に対するアドバイスや料理方法、畑での収穫等々のできることのお手伝いをいただきながら、生き生きとした表情で食事を楽しまれていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や水分量は把握できるが、栄養バランスは、主治医と相談する形を取っている。。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがいや入れ歯の洗浄・歯磨きをしている。また本人家族から希望があれば歯科の検診も行えるようにしている。		

グループホーム お達者倶楽部

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に利用者一人ひとりの排泄状況をチェックし、その人のパターンに合わせてトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表を用いてパターンを知り、さりげない声掛けや誘導によって、トイレでの排泄支援が行われ、パットの使用や失禁の回数減少に導いています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日軽体操を行ったり、便秘予防に繋がる水分と食事の工夫の提供を行っている。どうしても便秘傾向にある利用者については、主治医と相談し下剤の服用をしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決めている為、今後利用者個々の希望に添えるようにしていきたい。また、あまり入浴を好まない利用者については、誘い方を工夫している。利用者の体調に合わせてシャワー浴や足浴も行っている。	利用者の精神面での状況から、週3回の入浴日を決められ、入浴支援が行われています。入浴できない時は、陰部浴、足浴、シャワー浴などが行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具は、自宅で使い慣れた物を持参している。個々の状態に合わせた就寝時間にしていく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が利用者の服薬内容を確認できるようになっている。内服薬の変更や随時の処方があった場合は、申し送りや記録から職員が共有できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事で楽しみごとを盛り込み参加して楽しんでいる。ドライブや買い物等で気分転換をして頂いている。日常の中で家事仕事の役割を持つ利用者の方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	天気の良い日は、近所を散歩したり、買い物、ドライブ、地域の行事へ参加するなど出掛けられるようにしている。	散歩や買い物、美容室の利用、ドライブ、地域行事への参加、自宅訪問、外食等々、利用者や家族等の希望に沿って個別対応が行われております。	

グループホーム お達者倶楽部

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解もあり利用者本人がお金を所持されている方が数名いる。また、買い物や、美容室での支払いは、職員の見守りの中で自分で支払うようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が遠方に住んでいるなど、なかなか合えないケースや、その都度訴えがある場合などは、電話の利用をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの中には写真が飾っており、利用者が作成した物も展示している。トイレには目印をつけており分かりやすくしている。	広々としたホールに小上がりの畳スペースやソファ、テレビ、テーブル等が配置され、利用者一人ひとりが居心地の良い場所で過ごされております。また、行事時の写真や手作りの作品が掲示されており、家庭的で温かな雰囲気を醸し出しております。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	食事以外の時間は、ホールや居室等それぞれ好きな場所で自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットは、ホーム備え付けの物がある。その他、本人が必要とするタンス、テレビ、テーブルなどを持ち込まれている。	筆筒やソファ、テレビ、テーブル等の使い慣れたものや家族の写真、遺影等が持ち込まれ、利用者それぞれが思い思いに過ごせるように工夫をされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見やすい大きい時計や暦を置き、トイレも分かりやすいよう大きな字で印を書き間違いや混乱がないようにしている。		